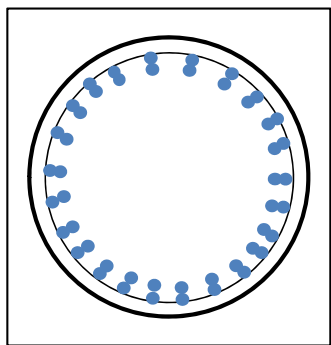


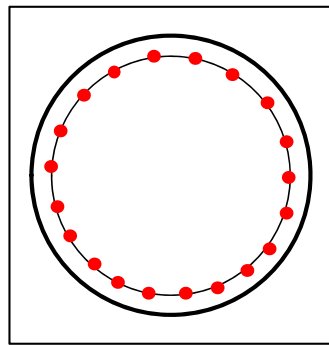
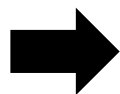
背景

杭の終局設計は建築基準法では必要とされていないが、
杭の終局耐力は超高層建築物において検討する必要がある。

杭の曲げ耐力を改善するために杭主筋の量を増加させる必要がある。

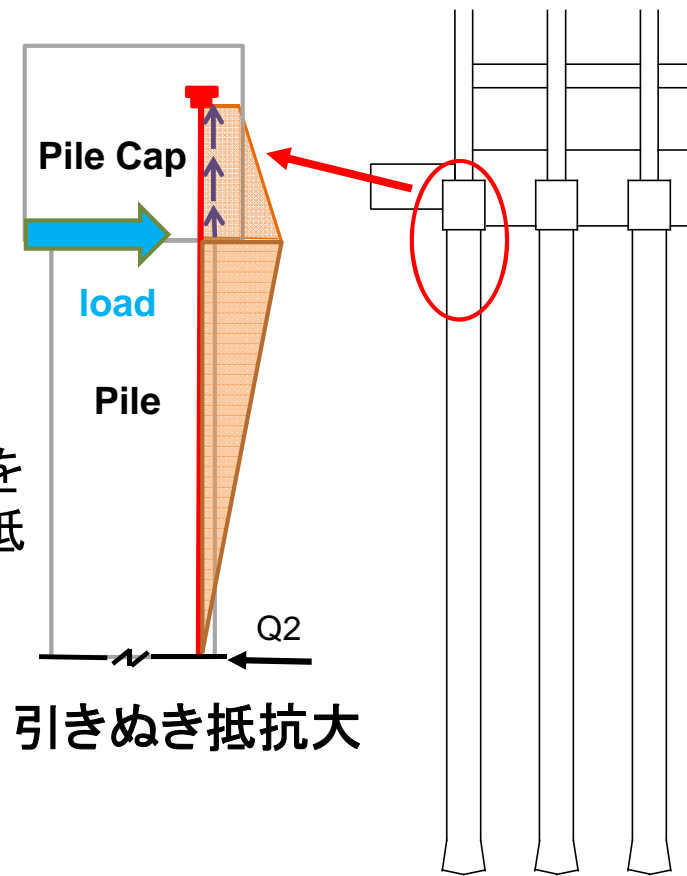
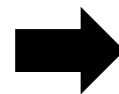


普通強度主筋配筋図
引きぬき抵抗大



高強度主筋配筋図
引きぬき抵抗小

アンカープレートを利用して引きぬき抵抗を改善する。



引きぬき抵抗大

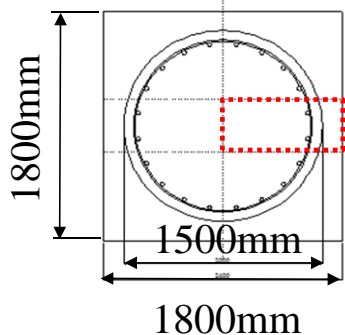
目的

①<要素試験体解析>

定着長の変化による影響を調べる。

②<実物大試験体解析>

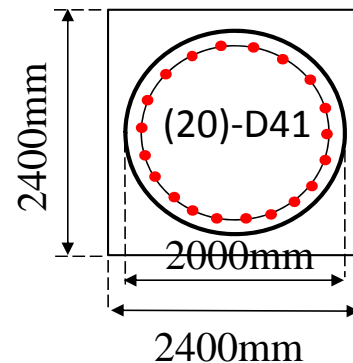
定着長の効果を実物大試験体の解析によって調べる。



点線部分を抽出した。

実験を行った2体の試験体
及び新しいパラメーターの
試験体の解析を行った。

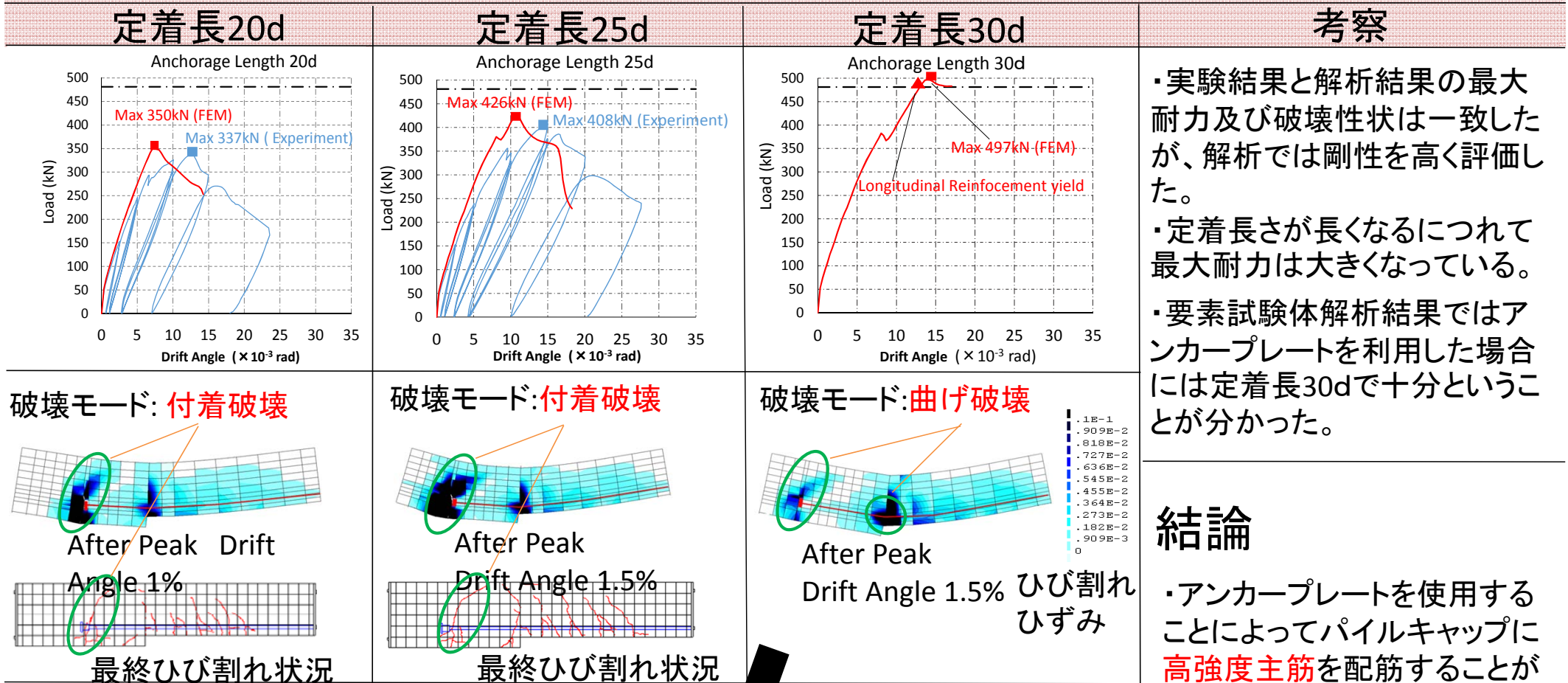
定着長: 20d, 25d + 解析試験体30d



Pg=0.84% (鉄筋比)

部分と全体では応力が異なるため、実際の状況を考えて全体の解析を行う必要がある。

①要素試験体解析結果



②実物大試験体解析結果 (杭荷重-部材角関係)

